
もし外道なチートオリ主が物語りに介入したら.....Fate/stay night編

リベリオン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もし外道なチートオリ主が物語りに介入したら…… Fate/stay night 編

【Nコード】

N4871Z

【作者名】

リベリオン

【あらすじ】

もしアニメや漫画の世界にチートオリ主が転生して縦横無尽に暴れまわったらとゆう妄想からうまれた作品です。現在は不定期更新です。 ここ重要！！

プロローグ（前書き）

この小説は作者の妄想の垂れ流しです。

プロローグ

どうも初めまして、俺の名前は、いつくしま 巖島 あきら 晃 何処にでもいる17歳の高校生だ。

趣味はテレビ観賞（アニメのみです。） やゲーム（学校には行かずやりこんでいます。） そして読書（全て漫画のみです。） とゆう健全な学生だ。（世間では彼の事をニートや引きこもりと言います。）

そんな健全な学生（ちがいます。） である俺は今、17年間の人生で最大の出来事に見舞われていた。

俺はいつも道理にベッドに入って寝たはずだった。しかし、次に目を覚ましたら其処は白い空間だった。

例えるなら白い宇宙といったところだろうか…………… まあ宇宙がどんなのかは知らんのだが…………

まあいきなりこの白い世界にいた俺は誰かいないか探し始めたのだが………… いや、特に問題があったわけでもなく人は簡単に見つかった。とりあえず俺は見つけた幼女に声をかける事にした。しかし…………

「申し訳ございませんでした

」

といきなり土下座されて謝られたのだった。

いやあしかし………… 見事なジャンピング土下座だったな………… と、今は感心している場合じゃないな。

「えっと…君はここが何処だかわかる？あと何で俺がここにいるのかわかる？」

白いゴスロリを着て俺の前に土下座してビクビクしている少女に俺は出来るだけ優しく問いかけた。

そうすると土下座している少女は土下座をしたままの態勢で顔だけこっちに向けた。

「怒りませんか？絶対におこりませんか？」

少女は涙目をウルウルさせて問いかけてくる。

そして俺はこう思った……………萌え…………と

ゲフン、ゲフン……………と、それはさておき…………

「怒らないから話してくれないかな」

「うう……………わかりました。…………えっと、個々は生と死のハザマの世界で、人間でゆうところの

三途の川と呼ばれている場所です。」

なるほど…個々は三途の川だったのか……………あれ？ちょっと待て、なんか可笑いぞ。

「何で俺は個々にいるんだよ！普通三途の川って死んでからくる所だよな！俺死んでねーぞ！」

「ひっ！……あのですね…大変申し上げにくいのですが…貴方は既に死んでいます。」

「へ？…まじですか？何ですか！何で寝ただけで死んでるんすか！」

「えっと…すみません。原因は私なのです。」

「どーゆうこと？」

「あのですね、私は一応天界に住まう神の一人で名前をアテナと言います。それですね、最近残業が続いてまして…息抜きテレビで漫才を見ながらにオレンジジュースを飲んでいたんですけど、私がオレンジジュースを口に含んだ瞬間…漫才が笑いのツボにはいつておもしろいオレンジジュースを噴出しまして…偶然近くにあった魂の書類を汚してしまいました…」

「それで俺が死んだと……」

「本当に申し訳ございませんでした 「いや謝らなくていいよ…うん。全然怒ってないから……」 本当ですか！よかった……」

そう言って少女ことアテナは土下座状態から立ち上がろうとする。

「ああ、言い忘れていたのですが、神のミスで死んだので貴方には………ってなにしているのですか？！なんで指をポキポキって鳴らしているのですか！」

完全に土下座状態から立ち上がったアテナは俺の行動をみて驚き顔

「おい、聞こえるか?」「ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナ
サイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、
ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメ
ンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナ
サイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、
ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメ
ンナサイ、ゴメンナサイ。…………返事がないどうやら壊れたラジ
カセの様だ。」

さて……ガチでどうしよう……どっかに捨ててこようかな……

捨てちゃあだめですよ！ B Y 宇宙の意思（作者）

ん？今の一体……まあどうでもいいか……さて…捨てるのは駄目なのでどうにかして正氣に戻さないといけないのだが……そうだ！この前テレビで見たあの技なら。

「おーいアテネ聞こえ　「ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメン
ナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサ
イ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、
ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメ
ンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナ
サイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、
ゴメンナサイ、ゴメンナサイ。」　てないよな……まあいい、い
いかよく聞けよ。お前は俺が、3、2、1、で指を鳴らすから鳴ら
したら元に戻れ。わかったな。」

「ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴ
メンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメン

「もちろん、『ガムテープの錬金術師』でよろ」

「はあー……はい設定しましたよ。次はどうします？」

「そうだな……次は、転生語にFate/stay nightに出してきた、『ゲート オブ バビロン』のようなのが欲しいな。とにかく何でも入って、1回でも中に入れたら取り出してもなくならない様にして欲しいんだけど」

「わかりました。ですが動物とか人間は入りませんよ。」

「OK、それでいいよ」

「……設定しました。名前は『ゲート オブ バビロン』でいいですね？」

「いや、『家庭の物置』と書いて『ゲート オブ バビロン』と読む」

「……次は何にします？」

「転生後に最強のA・Tフィールドをくれ。あと何枚もはれるようにしてほしいのところで勝手にどんなときでもはれるようによろしく。」

「わかりました。名前は……『ドコデモA・Tフィールド』で。」
「わかりました。」

「次は……転生後の能力を上げてくれ。Fate/stay night

h t だつたらオールEXオーバみたいなかんじで。」

「……………化け物ですね……………」

「そうか？まあどうでもいいが……………次は……………全ての始まりに介入する能力をくれ」

「？どう結ぶ事ですか？」

「簡単に言うと……………全ての事象には始まりと終わりがある。その始まりに介入することが出来る能力が欲しいと言っている。」

「えっと……………始まりに介入してどうなるのですか？」

「簡単な話だ。始まりが違えば終わりも違つとゆう事さ。」

「？とりあえず設定しますね。ええっと……………名前は何にします？」

「『森羅万象』でよろしく。」

「えっと……………その名前はちよつとまずい気が……………「えっと次は……………あれ？今思つただけどさ、何か火力が少ない気がする。」ってスルーですか！とゆうよりこれ以上能力を上げてどうするのですか！」

「そうだな……………よし、次は転生後にできるだけ小さくしたガンダムXについているサテライトキャノンを出せるようにしてくれ。あとバズーカみたいに持って撃ちたいから反動と重さカットで。おまけにエネルギー消費無しでよろしく。あと名前は『ドコデモサテライトキャノン』でよろ。」

「私の意見はむしですか！まあいいですけど……一応大きさはRPG-7ぐらいになります。」

「了解。あとは……型月の世界で魔術師たちが求める『』をくれ。」

「わかりました。『っていいのかよ！』それじゃあ転生してもらいますね。本当にすみませんでした。」

「いや。もう気にしてないからいいよ。それより早く転生してくれないか？」

「わかりました。それじゃあいつてらっしゃいます。」

そうアテナが言うのと俺の足場がいきなり消えて俺は落ちていった。

「うおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおお」

そして落ち始めてから数分後、俺はいきなり襲ってきた睡魔に勝てずに意識を手放した。

「そういえば彼、転生後の世界を決めてませんでしたね。どこにたどり着いたのか確認し着ますか……………」

ピポパポ……

「えゝ！なんで世界ができる前の根源に転生してるんですか……！！」
アテナの絶叫が何も無い世界に響いた。

プロローグ（後書き）

感想をお待ちしております。

第1話（前書き）

キャラ紹介は第4次聖杯戦争が開始してからのせます。

この瞬間、ビックバンと呼ばれる現象が起き、新しい平行世界がうみだされた。

そして、ビックバンの中心にいたものは消え去り、その代わりそこには1つの星があった。

そして、この星は未来で『地球』とよばれることになる。

ここは……どこだ？………って！あのロリ神にあったあの空間じゃん！たしか……三途の川だっけ？なんで戻ってきてんだよ！

「ハア………貴方は何をしてるんですか………」

俺の前にいきなり現れたロリ神が嘆息をもらす。

「いやいや！お前もなんであんな世界に放り込んでんだよ！」

「それはこちらのミスですけどなんで新しい平行世界を作ってるんですか！おかげでこっちがどれだけ忙しかったと思ってるんですか！」

「お前たちがあんな世界に送ったのが原因だろ！だいたいなんだよあの世界は！」

「私が送ったんじゃないんですよ！だいたいあれは世界ができる前の空間なんですよ！貴方がそこに新しく平行世界を作ったせいで貴方が神の一人になったんですよ！」

へ？いまこのロリ神なんって言った。

「おい………お前、何っていった？」

「だから貴方が神になったんですよ！しかもいきなり最高ランクの創世神ってふさけてるんですか！」

「すまん。状況がわからん。詳しくはなせ。」

「ええ、たつぷりと聞かせてあげますよ！まずですね……………（色々と説明中）……………とゆうわけです。わかりましたか？」

「ああなんとなくわかった。つまり、俺が新しい世界を作ったせいで新しい神様になったと……………」

説明中に冷静になったロリ神が言うには、世界を作るのは最高ランクの神にしかできない所業でそれをした俺は最高ランクの神でちょうど空席だった創世神になったそうだ。

「ちなみに私はこのたび創世神になった貴方の部下になったの部下になることになったオリンポスの神々の一人、真名をアテナと申します。まあよろしくおねがいますね。」

「ああよろしく、ところで何でアテナが俺の部下になるんだ？」

「簡単に説明しますと「お前が起こしたことが原因なんだから責任とれよ」ってことらしいですよ」

「神の世界も色々あるんですね……………」

「そうなんですよ……………」

ハア…………と俺とアテナは嘆息をもらした。

こうして俺は神様になった。

「ところですか」

「なんですか？」

「俺が作った平行世界ってどんなふうになったの？」

「ええっと……たしかこの資料にかいてますよ」

そう言っただけからとも無く資料をだしたアテナは俺に資料をわたしてきた。

えっと……なにに……ちょー！なにこれ！

「なんで型月の世界なのさ………」

なぜか色々変わっていたがまさしく型月の世界だった。

第1話（後書き）

感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4871z/>

もし外道なチートオリ主が物語りに介入したら.....Fate/stay night編

2011年12月16日17時58分発行